

JAきみつの概況

ディスクロージャー誌 2025

— 抜粋内容 —

1. 事業の概況（2024年度）
2. 農業振興活動
3. 地域貢献情報

1. 事業の概況（2024年度）

概況

コロナ禍からの回復ならびに円安を背景に、訪日外国人によるインバウンドによって消費活動が伸びる一方で、日本国内はインフレーションの継続や、長引くロシアのウクライナ侵攻、ハマスのイスラエル攻撃による不安定な中東情勢を要因とした国際貿易の不確実性によってエネルギー輸入コストの増加が、食料・資材・原油など多くの分野で価格が高止まりし、国民生活に価格高騰の影響を及ぼしています。また、労働市場の拡大によって就職率も上昇する反面、農業分野では、高齢化に伴う離農によって耕作放棄地が増加する一方で、新規就農者・担い手は減少し、労働力が不足するなかで気候変動に伴う高温や豪雨・洪水など、自然災害の影響が農業者にとって深刻な問題となっています。

J Aきみつでは、農業構造の変化や組合員との対話等を踏まえて「第六次農業・地域振興計画」「第八次経営刷新3カ年計画」を着実に実践し「農業者の所得増大・農業生産の拡大・地域の活性化」の実現と持続可能な地域・組織・事業基盤の確立を目指してまいりました。

信用事業

信用事業は、地域金融機関として利用者から信頼いただけることを目指し、個人貯金各種キャンペーン・年金・給与振込口座獲得運動に取り組みましたが、物価高騰による資金需要の増加ならびに、相続等による貯金流出によって総貯金は1,999億9千万円（達成率97.5%）個人貯金残高1,815億1千万円（達成率98.2%）と目標には届きませんでした。貸出金については、農業融資・住宅ローン・マイカーローンなど生活応援キャンペーンを中心に組み貸出金残高338億3千万円（達成率93.2%）の結果となりました。また、組合員の資産形成と運用の提案として、投資信託等を扱う複合外務職員による新NISAへの提案活動にも引き続き取り組みました。

共済事業

共済事業は、組合員、利用者の満足度向上に向けて、コンプライアンス態勢の徹底を図り3Q訪問活動ならびに自動車証券回収活動から得た情報や多様化するニーズに合った「ひと・いえ・くるま・農業」への提案活動と相談業務を行いました。目標達成率は86.9%の結果となりました。

農業関連事業

販売事業における米の実績は、需要の増加と販売先の提案及び全農との連携強化によって前年を大きく上回りました。また、野菜・花卉は開花時からの高温による影響によって出荷数量の減少や正品比率の低下を招き前年を下回りましたが、買取販売高は契約販売に向けた面積拡大等により前年実績を上回りました。購買事業は「第八次経営刷新3カ年計画」の着実な実践と購買品供給高の拡大に取り組んだ結果、生産資材、生活物資とも前年実績を上回りました。

生活関連事業

燃料事業は、原油価格高騰の影響もありましたが、LINE登録及び洗車・タイヤキャンペーンなど油外の供給拡大により前年を上回りました。

教育・広報

J A広報誌「みずき」はJ A事業や身近な情報、地域のニュース等を提供し、より親しみやすい紙面作りに努めました。また、食の安全・安心に関わる情報、農業・J Aの将来を左右する農政課題等を明確に伝える為、家の光と日本農業新聞の積極的な普及活動に取

り組みました。この結果、年度末の購読部数は家の光564部（普及率5.60%）、農業新聞524部（普及率5.20%）となりました。

損益

当組合の財務状況について、令和6年度の事業計画及び「第八次経営刷新3カ年計画」の実践に取り組み、事業利益は1億6千万円となり、計画を3千万円上回りました。経常利益は2億7千万円となり、計画を5千万円上回りました。そして、当期剰余金は2億4百万円となり、計画を4千万円上回りました。

組合員加入促進および増資運動等により自己資本の増強に取り組んだ結果、当期の自己資本比率は13.02%（前年度対比0.72ポイント増）となりました。

また、不良債権処理を進めた結果、不良債権比率は0.55%（前年同）となりました。

2. 農業振興活動（2024年度）

新規就農者による事例発表

— きみつ農業いきいき交流会 —



1月23日 かずさアカデミアホールで、千葉県君津農業事務所主催の「きみつ農業いきいき交流会 2024～地域の未来を描こうII～」が開かれ、農業者や農業関係機関職員など約250人が参加しました。事例発表では、(株)百姓王の森田泰彰 CEOが「人と人とのつながりを力に変えて～これからの地域農業のかたち～」と題し、設立から10年たった営農集団「百姓王」の活動について、新規参入者、新規就農者で百姓王に加わった3人が事例を発表しました。

出前授業で味噌づくりを指導

— 農業体験を通じて —



2月1日 君津市農業農村活性化協議会は、川崎市立川崎高等学校附属中学校1年生120人を対象に「味噌づくり」教室を開きました。生徒たちが農業体験を通して栽培した小糸在来®大豆を使用。講師を務めたJ A女性部員、職員らが丁寧に指導しました。

ブルーベリーの剪定を学ぶ



— かずさブルーベリー研究会 —

2月16日 かずさブルーベリー研究会は、富津市の会員ほ場で剪定講習会を開き、会員13人、君津農業事務所、JA職員らが参加しました。当日は、同研究会の会長であり、一般社団法人日本ブルーベリー協会の副会長で認定栽培士の遠山克巳さんが講師となり、交差する枝や内向きに伸びる枝を実際に剪定しながら、丁寧に説明。会員らは熱心に耳を傾けながら技術を習得していきました。

卸売市場でトップセールス



— 君津市小糸花卉園芸組合 —

2月19日 君津市小糸花卉園芸組合は、東京都中央区卸売市場の(株)大田花きでカラーやミモザのトップセールスを行いました。これは、販売力強化と知名度向上を図ることを目的に行っているもので、君津市の石井宏子市長、同組合の杉谷善久組合長、JAの大古政昭常務、君津農業事務所、同組合員らが参加。市場関係者に、同組合の花きをPRしました。

サヤインゲンの育成状況を確認

— 小櫃園芸部会洋菜部 —

4月2日 小櫃園芸部会洋菜部は、4月中旬から出荷が始まるサヤインゲン「グリーンタッキー」のほ場巡回を行いました。鈴木正夫部会長、君津農業事務所、JA担当者らが、部員のほ場4カ所を回りました。訪れたほ場では部員が現状について説明。今後の管理などについて、JAや農業事務所の職員と意見を交わしました。本格出荷を前に規格を確認するため出荷査定会を開きました。



プリンスメロン査定会

— 富津メロン部会 —



5月14日 富津メロン部会は、富津経済センター富津集荷場で「プリンスメロン査定会」を開き、同部会の林 泰弘部会長をはじめ部会員、市場関係者、君津農業事務所、JA全農ちば、JA職員など16人が参加しました。当日は、販売情勢、生育状況や今後の管理、選果選別基準や出荷時の注意点について説明。現品査定では、市場関係者が選んだメロンをカットして品質を確認。糖度は17度と高く、出来の良さを証明しました。

5月下旬まで、東京や千葉の市場へ出荷し、直売所でも販売しました。

学校給食米現地検討会

— 君津稲作部会 —

6月24日 君津稲作部会は、令和6年産「学校給食米圃場現地検討会」を開き、部会員、君津市議、同市の環境経済部・学校給食担当職員・栄養士、君津農業事務所、農薬メーカー、JA職員が参加しました。当日は、君津市内の学校給食米栽培ほ場4か所を巡回し、稲の生育状況や今後の栽培管理などについて検討しました。



組合員の所得増大と生産拡大を目指して

— 水田を活用したサトイモほ場巡回 —



6月27日 JAは君津農業事務所と、JA管内のサトイモほ場を巡回し、生育状況や病害虫の発生の有無などを確認。今後の栽培について指導を行ったほか、生産者同士で情報を共有する機会にもなりました。水田を活用したサトイモの栽培は、JAが自己改革として位置付けている第六次農業・地域振興計画で「園芸作物の生産による所得の増大」を掲げ取り組んでおり今期で4年目となります。

二千年前の先祖から受け継いだ「上総千年の米」ほ場現地検討会

— 上総千年のお米栽培研究会 —



7月10日 上総千年のお米栽培研究会は、ほ場現地検討会を開き、会員、君津農業事務所、(有)石川商店、JA職員など12人が参加しました。同会は「二千年前の先祖から受け継いだ上総の国の田んぼを守り、千年後の子孫に繋ぐこと」などを理念に、大きな米粒を実らせるため、通常よりも田植えを遅らせ、ちばエコ基準での生産。食味や残留農薬検査を行い、安全・安心、美味しいお米づくりを目指しています。

農業機械ずらり！展示会を開催

7月20日 農業機械大展示会を平川経済センターで開き、多くの来場者でにぎわいました。会場に、各メーカーのトラクターやコンバイン、管理機など数多く展示。軽トラック、農業資金、JA共済VR体験コーナーなども設けました。来場者は農機統括センター・整備工場の職員やメーカー担当者から機械の操作方法などについて説明を受けていました。

— 平川経済センターにて —



米の出荷は全量JAへ！



— 令和6年産米初検査と目合せ会 —

8月13日 小櫃経済センターで令和6年産米の目合わせ会を行いました。検査場には、主食用米「コシヒカリ」27袋、「ふさおとめ」2,554袋、「ふさこがね」340袋のほか、加工用米、飼料用米が出荷されました。江澤組合長は「農業者の所得増大に取り組んでいるなかで、販売量の一番多い米の価格が重要だと思い、お米の仮渡金額を引き上げた。暑い中だがしっかりと検査を行い良質な米を消費者に届けてほしい」と検査員を激励しました。JAは、生産者に契約数量以上の出荷を呼び掛け、有利販売を目指していく方針です。

食農体験の積極的な提供



— 小糸在来®オーナー引き渡し —

10月11、12日 上湯江地区小糸在来®オーナー制実行委員会は「小糸在来®(エダマメ・大豆)オーナー引き渡し」を行いました。同委員会は、「芳醇な香りと豊かなうまみ」を多くの方々に直接届けようと、6月に1,500区画(1区画1畝約20m)のオーナーを募集し、会員8戸で栽培管理をしてきました。当日は、多くのオーナーがほ場を訪れ、秋のエダマメ収穫を楽しみました。

清和のジネンジョ対面販売



— 味楽園さだもと店 —

11月10日 清和自然薯組合は味楽園さだもと店「秋の味覚感謝祭」でジネンジョの対面販売を行いました。当日は組合員6人が参加し、ジネンジョの簡単な調理方法や保存方法などを消費者にアピール。ミキサーを使い麺つゆで味付けをした「とろろ」の作り方を実演しました。とろろご飯の試食を呼びかけると長蛇の列ができる盛況ぶりで来店者はジネンジョを手に取り購入していきました。

JA きみつ農業まつり盛大に開催



— 君津市民文化ホール —

12月7日 農業まつりを盛大に開きました。農業まつりは、JA管内の農業振興と収穫の喜びを消費者とともに分かち合い、ふれあいを通じて相互の連携と農業協同組合運動の主旨を理解いただき、明日の営農と暮らしを守ることを目的として君津市民文化ホールで開催しました。農畜産物品評会や大抽選会、米消費拡大、演芸など大規模なおまつりとなりました。

3. 地域貢献情報

I 地域貢献に関する取組み

○協同組織の特性

当JAは、君津市、袖ヶ浦市、富津市を事業区域として、農業者を中心とした地域住民の方々が組合員となって、相互扶助（お互いに助け合い、お互いに発展していくこと）を共通の理念として運営される協同組織です。

当JAの資金は、その大半が組合員の皆様などからお預かりした、大切な財産である「貯金」を源泉としております。当JAでは資金を必要とする組合員の皆さま方や、地方公共団体などにもご利用いただいております。

当JAは、地域の一員として、組合員及び地域住民の信頼と支持を得ながら、農業の発展と健康で豊かな地域社会の実現に向けて、事業活動を展開しています。

また、JAの総合事業を通じて各種金融機能・サービス等を提供するだけでなく、地域の協同組合として、農業や助け合いを通じた社会貢献に努めるとともに、事業基盤の維持・拡大に取り組み、新しい時代に対応した経営・意識・事業の改革に取り組んでいます。

組合員数 21,834人 出 資 金 3,989百万円
(うちその他の出資金) (1,160百万円)

1. 地域からの資金調達の状況

- (1) 貯金積金残高 199,997百万円(うち定期積金 1,989百万円)
(2) 貯金商品 ・高齢者優遇定期貯金「寿500」、同定期積金「長寿300」
・退職者優遇定期貯金・共済金定期貯金
・知人囲会定期積金・子育て支援金利上乘せプレミアム定期積金

2. 地域への資金供給の状況

- (1) 貸出金残高 24,309百万円(組合員等)
4,315百万円(地方公共団体等)
5,208百万円(その他)
- (2) 制度融資取扱い状況
- ① 農業近代化資金 777百万円(143件)
(資金の概要) 設備投資等に必要な資金を融資する農協等民間金融機関が融資する中期の資金で県ならびに市が利子補給する資金
- 百万円(-件)
- ② 農業改良資金
(資金の概要) 新たな農業部門を開始したり、新たに加工部門に進出するなど新作物分野・加工流通分野・新技術にチャレンジする際の利用に適した中期の資金で県の資金を原資とする無利子資金
- 百万円(-件)
- ③ 就農支援資金
(資金の概要) 新たに農業を開始しようとする者(認定就農者)が就農のために研修等の受講、就農に際しての準備、経営開始時の設備投資等に必要な資金を融資する国・県等の資金を原資とする無利子資金
- 百万円(-件)
- ④ 家畜飼料特別支援資金
(資金の概要) 畜産農家が配合飼料の価格高騰により、経営の継続に支障をきたしている時に、飼養技術の向上等による生産性向上を図るまでの間、飼料購入に要する経費を融資する資金
9百万円(1件)
- ⑤ 農業経営負担軽減支援資金
(資金の概要) 農林公庫資金、農業近代化資金、農業改良資金等の制度資金を借り換えるための民間原資の資金で都道府県(国からの補助金を含む。)が利子補給する資金

(3) 融資商品

- ・住宅資金
- ・生活資金
- ・教育資金
- ・農外事業資金
- ・賃貸住宅建設資金
- ・水洗トイレ資金

3. 文化的・社会的貢献に関する事項（地域とのつながり）

(1) 文化的・社会的貢献に関する事項

- ・税務相談会開催
- ・法律相談会開催
- ・年金相談会開催
- ・集団健康診断及び健康相談
- ・中学生、高校生職場体験協力(インターンシップ)
- ・日本赤十字社の献血への会場提供および参加

文化・教育に貢献
(食農教育本を贈呈)



地域ふれあい活動
(小櫃支店ふれあい活動)



あぐりスクール
(小糸在来®播種体験)



交通安全教育に協力
(管内小学校新1年生にお守り寄贈)



(2) 利用者ネットワーク化への取り組み

- ・知人囲会（会員数 240人）
（会員資格） 定期積金(契約期間3年、契約額48万円以上)の契約者で入会を希望する方
（活動内容） グルメツアー、観劇ツアー等の親睦
- ・年金友の会（会員数 13,563人）
（会員資格） 公的年金の受給口座を当JAに指定している方
（活動内容） 親睦旅行 グラウンドゴルフ大会

(3) 情報提供活動

- ・広報誌「みずき」年12回発行
- ・ホームページURL <http://www.ja-kimitu.or.jp>
- ・日本農業新聞普及活動

(4) 店舗体制

本店1 支店11 経済センター4 購買店2 介護センター1
農機統括センター1 農機整備工場1 給油所4
直売所3 葬祭センター1 葬祭場2 自動車整備工場2
不動産センター1 共代理店26